

達第百十五號

海軍監獄處務細則中左ノ通改正ス

明治四十一年十月一日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

第二條中「海軍監獄書記」ヲ「庶務擔當ノ海軍監獄看守長」ニ改ム  
第三條中「海軍監獄看守長」ノ上ニ「戒護擔當」ヲ加フ  
第五條及第九條中「書記」ヲ「庶務擔當ノ海軍監獄看守長」ニ改ム

達第百十六號

海軍監獄看守長、海軍監獄看守配置表左ノ通定ム

明治四十一年十月一日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

海軍監獄看守長、海軍監獄看守配置表

百十二

海 軍

橫須賀海軍監獄	海軍監獄看守長	海軍監獄看守
吳海軍監獄	四	十五
佐世保海軍監獄	四	十四
舞鶴海軍監獄	四	十三

附 則

海軍監獄書記、同看守長、同看守配置表ハ之ヲ廢止ス  
明治三十一年達第百十五號

達第百十七號

沒收及領證金銭出納規程中左ノ通改正ス

明治四十一年十月一日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

第一表出納官吏ノ欄「海軍監獄書記」ヲ「海軍監獄看守長」ニ改ム

達第百十八號

明治三十六年<sup>十一月</sup>達第百三十一號通常物品出納命令官會計官吏別表中左ノ逋改正ス

明治四十一年十月一日

海軍大臣 男爵齋藤 實

品名ノ欄「囚徒費所屬物品」ノ項中「監獄書記」ヲ「監獄看守長」ニ改ム

達第百十九號

海軍監獄領置物品取扱手續中左ノ逋改正ス

明治四十一年十月一日

海軍大臣 男爵齋藤 實

第二號中「海軍監獄第十八條ニ依リ」ヲ「海軍監獄ニ於テ」ニ改ム  
書式中「監獄書記」ヲ「監獄看守長」ニ改ム

百十三

海軍

3228

逓第百二十號

海軍軍法會議ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ關スル取扱手續左ノ通定ム

明治四十一年十月一日

海軍大臣 男爵齋藤 實

刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ關スル取扱手續

第一條 軍法會議ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄長ニ通報スヘシ

第二條 所轄長又ハ主理ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ原因アルコトヲ知リタルトキハ其ノ旨ヲ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ニ近キ軍法會議ニ通報スヘシ

第三條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者海軍刑法第八條第一號第二號ノ身分ヲ失ヒタルトキハ所轄長ハ所管長官ニ申報スヘシ

百十四

海軍

逓第百二十一號

海軍假出獄取締細則左ノ通定ム

明治四十一年十月一日

海軍大臣 男爵齋藤 實

海軍假出獄取締細則

第一條 假出獄ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ海軍監獄長ハ其ノ所屬廳ニ到着スヘキ日ヲ定メ之ヲ證票ニ記載スヘシ

假出獄ヲ許サレタル者ハ前項ニ依リ證票ニ記載セラレタル日ニ所屬廳ニ出頭スヘシ

第二條 假出獄ヲ許サレタル者天災疾病其ノ他己ムコトヲ得サル事故ニ依リ指定ノ期日ニ所屬廳ニ到着スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ證明スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ所轄長ハ意見ヲ附シ證票ヲ交付シタル監獄長ニ通報スヘシ

第三條 證票ヲ交付シタル監獄長ハ假出獄ヲ許サレタル者ノ所屬廳ニ到着スヘキ日ヲ豫メ所轄長ニ通報スヘシ

第四條 假出獄ヲ許サレタル者ノ所屬ニ異動アリタルトキハ舊所屬ノ長ハ其ノ旨ヲ證票ヲ交付シタル海軍監獄長ニ通報スヘシ

第一條及第二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ證票ノ記載ハ舊所屬ノ長之ヲ爲ス

第五條 假出獄ヲ許サレタル者海軍下士卒ナルトキハ其ノ期間中所屬海兵團ノ定員外トス

第六條 所轄長ハ假出獄ヲ許サレタル者ニ對シ特ニ監督ヲ嚴ニシ二月毎ニ其ノ行狀ノ頁否其ノ他ノ事項ニ付證票ヲ交付シタル海軍監獄長ニ通報スヘシ

第七條 所轄長又ハ主理ハ假出獄ヲ許サレタル者カ刑法第二十九條第一項第一號乃至第三號ニ該ルコト懲罰若ハ懲戒ニ處セラレタルコト又ハ本則ニ違反シタルコトヲ知リタルトキハ意見ヲ附シ證票ヲ交付シタル海軍監獄長ニ通報スヘシ

第八條 假出獄處分ノ取消ヲ受ケタル者海軍監獄ニ在監中ナルトキハ其ノ監獄ニ於テ刑ノ執行ヲ爲スヘシ

第九條 假出獄處分ノ取消ヲ受ケタル者海軍監獄ニ在監セサルトキハ證票ヲ交付シタル海軍監獄長ハ裁判宣告ヲ爲シタル軍法會議ノ主理ニ必要ノ書類ヲ送付シ逮捕ヲ求ムヘシ

第十條 假出獄處分ノ取消ヲ受ケタル者ヲ逮捕シタルトキハ主理ハ關係書類ヲ添ヘ之ヲ其ノ地ノ海軍監獄ニ送付スヘシ

第十一條 假出獄處分ノ取消ヲ受ケタル者ノ證票ハ刑ノ執行ヲ爲シタル監獄ニ於テ之ヲ還納セシムヘシ

第十二條 假出獄ヲ許サレタル者海軍監獄令第二條ノ身分ヲ失フヘキトキハ所轄長ハ其ノ身分ヲ失フヘキ日及身分ヲ失ヒタル後ノ住所地ヲ豫メ證票ヲ交付シタル海軍監獄長ニ通報スヘシ

第十三條 假出獄ヲ許サレタル者死亡シタルトキハ所轄長ハ其ノ旨ヲ證票ヲ交付シタル海軍監獄長ニ通報スヘシ  
前項ノ通報ヲ受ケタル海軍監獄長ハ所管長官ヲ經テ其ノ旨ヲ海軍大臣ニ申報スヘシ

第十四條 下士卒身上取扱規則ニ依リ假出獄ヲ許サレタル者ヲ一時收容スヘキ監獄所在地ノ團、隊ハ本則ノ適用ニ付テハ之ヲ所屬處ト看做ス

達第百二十二號

軍法會議ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ其ノ身分ヲ失ヒタル場合ニ關スル取扱手續左ノ通定ム

明治四十一年十月一日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

第一條 軍法會議ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ海軍刑法第八條第一號第二號又ハ第九條第一項第一號第二號ニ記載シタル身分ヲ失ヒタルトキハ所管長官ヨリ裁判宣告書ノ寫(別ニ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲シタルトキハ其ノ言渡書ノ寫)ヲ添ヘ本人ノ刑ノ執行猶豫中ナル旨ヲ本人ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ニ通報スヘシ

第二條 軍法會議ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消シタルトキハ主理ハ其ノ旨及取消ノ

百十六

海 軍

原因ヲ本人ノ所管長官及本人ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事、所轄警察署及本籍地ノ戶籍吏ニ通知スヘシ

前項ノ軍法會議カ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ト異ルトキハ取消ヲ爲シタル旨及原因ヲ其ノ軍法會議ニ通知スヘシ

第三條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消シタルトキハ主理取消言渡書ノ寫ヲ添ヘ本人ヲ其ノ地ノ海軍監獄ニ交付スヘシ

海軍監獄長本人ノ交付ヲ受ケタルトキハ取消言渡書ノ寫ヲ添ヘ本人ヲ最近ノ普通監獄ニ送致スヘシ

3231

達第百二十三號

海軍兵備品會計規程中左ノ通改正ス

明治四十一年十月六日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

第三條別表中左ノ通改ム

經營需品ノ項中

要港部參謀長 要港部主計長ヲ

要港部主計長

\* 要港部附主計ニ改ム

第三十七條中「燒却」ノ下ニ「賣却」ヲ加フ

兵備品出納受拂帳簿證憑用紙書式備考中左ノ通改ム

第三號但書末尾ニ「又備品貸與品ノ帳簿ニ在リテハ年度締切ヲ爲サノルモノトス」ヲ加

フ

第四號兵備品ノ出納受拂ニ要スル證憑第六號乃至第十號書式ヲ別紙ノ通改ム

第六號末尾ニ「但シ事由書ノ内賣却ニ在リテハ賣拂ノ年月日並代價納付濟ノ年月日ヲ

記入スヘシ」ヲ加フ

百十七

海 軍

書式第十六號一行中「燒却」ノ下ニ「賣却」ヲ加フ

3232













達第百二十四號

鎮守府會計監督規程中左ノ通改正ス

明治四十一年十月六日

海軍大臣 男爵齋藤 實

第三條第二項ヲ左ノ通改ム

前項第一號調査ノ作製ハ適宜他ノ官吏ニ委任シ又第七號證明書ノ作製ハ軍港外ニ在ル經  
艇其ノ他各部ニ於テハ當該所轄長ニ委任スルコトヲ得

達第百二十五號

明治二十八年十月達第百十七號海軍通常物品會計規程第十二號様式ノ物品出納原簿ハ別  
紙様式ニ依ルコトヲ得

明治四十一年十月六日

海軍大臣 男爵齋藤 實

百十八

海軍

3238

年 月 日	摘 要	證 書 番 號	單 價	受																
				越 高		買 入		生 産		組 入		諸件附込		雜 件		計				
				數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格			

拂											残										
年 月日	摘要	證番 書號	平均 單價	生産之爲		賣 拂		分任物品 會計官更渡		諸件附込		計		工 場		各地送達		在 庫		計	
				數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格

達第百二十六號

關東州在勤者海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

明治四十一年十月十六日

海軍大臣 男爵 齋藤 實

第五條第一項中「宿舍ヲ貸與セザル者ニ限り第一表ニ依リ之ヲ支給ス」ヲ「之ヲ支給セス」ニ改メ同條第二項ヲ削ル  
第一表削除

正 誤

達第百二十五號別紙様式中受ノ綴穴右方ニアルハ左方ノ誤又拂殘ノ右方ニ綴穴二個ヲ脱ス

本年達第百十四號中「第二十五條」ハ「第二十四條」ノ誤

海 軍 省 副 官

百十九

海 軍

3241

送第百二十七號

明治四十一年送第百二十七號ヲ廢ス



明治四十一年十月二十三日

海軍大臣 男 齋藤 實

送第百二十七號參照

明治四十一年送第百二十七號ハ兵器及材料物品賬其月報ナリ

百二十

海軍



3242



廢止

明治三十五年達  
事  
本  
廢止

3243

達第百二十八號

四季及小演習用消耗兵器年額表別紙ノ通改正ス

明治四十一年十月二十三日

海軍大臣 男 齋藤 實

實

明治三十五年達第十九号

3243

百二十一

海軍

四季及小演習用消耗兵器年額表

種	類	量						記	事
		空用機一門艇	每艦	每艦艇	每設隊	每發射機	每望樓		
十二尹以上ノ砲		一〇							
八尹速射砲及十二尹未滿ノ通常砲		三〇							
十二吋以上ノ速射砲		四〇							
十二吋未滿ノ速射砲		六〇							
小銃		一五〇							
號火用雷管		二〇							
號火用雷管		三〇							
信號火箭	尾索アル 尾杆アル	一五							
全用火管		三〇							
全用火管		三〇							
魚形水雷衝突頭部		五							
魚形水雷發射火藥									
全用電氣火管									
全用電氣火管									
發光器									
大形爆發藥付探海鋪		四							
小形全		二							
大形鈎付鈰力罐		四							
小形全		二							
浮漂水雷									
電氣觸發水雷									
電氣機械水雷									
假製海底水雷									
全浮漂水雷									
全電氣觸發水雷									
全電氣機械水雷									
響古用小鈰力罐		三〇							
海中爆發信管		一〇〇							
斷電路信管									
十五號爆發信管		一〇							
安全導火線		一〇							

備  
 一、隅田伏見ハ驅逐艦ニ準シ海兵團ハ各艦ニ準ス  
 二、横須賀、吳、竹敷敷設隊ニ在リテハ本表年額ノ倍數トス  
 三、大演習ニ用フル消耗兵器ハ施行ノ際別ニ之ヲ定ム  
 四、訓練上必要アリト認ムルトキハ本表年額ノ範圍内ニ於テ其用途ニ使用スルコトヲ得  
 五、年度ヲ跨リ外國若ハ供給ヲ受クルニ困難ナル地ヘ航海スヘキ艦艇ニ在リテハ翌年度消耗兵器ノ前渡ヲ受クルコトヲ得  
 六、本表ニ記載セル品目ニ伴フ消耗兵器ハ必要ニ應シ便宜使用スルコトヲ得  
 七、消耗兵器ノ殘餘ハ翌年度ニ持越消耗スルコトヲ得ス  
 八、衝突頭部ハ各艦艇ニ供用ノ衝突頭部用魚形水雷ニ適合スルモノヲ供給ス

大正三年十月二十日  
改正

改正

3245

逓第二百二十九號

海軍無線電報取扱規約左ノ通定ム

明治四十一年十月二十日

海軍大臣男爵 齋藤 實

海軍無線電報取扱規約

第一章 總則

第一條 海軍艦船ト遞信省所屬無線電信局間ノ無線電報通信ハ本規約ニ據リ行フモノトス

第二條 無線電信ノ通信距離ハ通常百二十海里以内トシ其ノ通信ハ送受兩局(艦船)カ確實ナル通信距離以内ニアルトキ之ヲ行フモノトス

第三條 無線電信ノ受信ハ必ス現字式受信機ヲ以テスルモノトス但シ當分ノ間大瀨崎及潮岬ニ限ル

第四條 無線電信ノ受信文ハ八ヶ月間保存シ其ノ期滿ツルハ之ヲ燒却スヘシ但シ演習其

百二十二 海軍

ノ他事變ニ際シテハ別ニ定ムル所ノ規約ニ從フ

第五條 凡テ受信及傍受シタル海軍ノ通信ハ嚴ニ其ノ秘密ヲ保ツモノトス

第六條 無線電報ニハ左ノ指定事項ヲ記入スヘシ

指定事項 和文略符號 歐文略符號

無線電報 ナイ R A

第二章

第七條 無線電信ニ使用スル通信符號ハ左ニ記載スルモノ、外普通電信ニ用フルモノニ

同シ

一、片假名符號ニ於テハ

イ及キ ハ イ(ー)ヲ用ユ

ヲ及オ ハ ヲ(ー)ヲ用ユ

エ及エ ハ エ(ー)ヲ用ユ

二、羅馬字符號ニ於テハ

第八條 無線電信傳送上ニ使用スル特殊ノ略符號ハ左ノ如シ

Ü	Ö	Ñ	É	CH	À	Ä
(---)	(---)	(---)	(---)	(---)	(---)	(---)
} 用トス						

危急  
探呼  
送信中止  
局名前置  
可送

百二十三  
海軍

始信及終信

承 諾

結 了

萬國信號(P R B)

第九條 海軍艦船及遞信省所屬無線電信局ニハ附表第一ノ如ク艦船(局)名略符號ヲ附シ

通信ニ際シテハ之ニ依リ呼稱スルモノトス

第十條 前諸條ノ外必要ナル符號ハ附表第二ニ記載セルモノヲ用フヘシ

第三章 通信法

第十一條 通信ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フモノトス

- 一、呼出ヲナストキハ先ツ始信符(---)ヲ送り對手局(艦船)名略符號ヲ三回反覆シ次ニ局名前置符(---)ヲ送り自己ノ局(艦船)名略符號ヲ三回反覆スヘシ
- 二、被呼局(艦船)ハ先ツ始信符ヲ送り呼出局(艦船)名略符號ヲ三回反覆シ次ニ局名

前置符及自局(艦船)名略符ヲ送ルヘシ

三、被呼局(艦船)ノ應信ヲ見ハ呼出局(艦船)ハ左ノ順序ニヨリ所要ノ電報ヲ送ルモノトス

- 1 電報ノ種類 前置符ヲ用ユ
- 2 發信局所名 普通名稱ヲ用非國名等ヲ冠スヘキモノハ局所名ノ前ニ之ヲ送ルヘシ但シ海軍艦船ヨリ發信ノトキハ之ヲ省略スヘシ
- 3 電報ノ番號 當方ナラハ省略スヘシ  
海軍艦船ヨリ發信スルトキ亦同シ
- 4 受付ノ月日 海軍艦船ヨリ發信スルトキハ之ヲ省略スヘシ
- 5 受付ノ時分 海軍艦船ヨリ發信スルトキハ之ヲ省略スヘシ
- 6 電報字數 居所氏名ノ字數記載アルモノハ先ツ之ヲ送り次ニ略號(略符)ヲ用サヘシ(次ニ本文ノ字數ヲ送ルヘシ)  
普通名稱ヲ用非國名等ヲ冠スヘキモノハ局所名ノ前ニ之ヲ送ルヘシ但シ海軍艦船ヨリ發信ノトキハ之ヲ省略スヘシ
- 7 著信局所名 普通名稱ヲ用非國名等ヲ冠スヘキモノハ局所名ノ前ニ之ヲ送ルヘシ但シ海軍艦船ヨリ發信ノトキハ之ヲ省略スヘシ
- 8 受信人居所氏名
- 9 送達紙ノ外部ニ記載ヲ要スル發信人居所氏名アルトキハ此ノ處ニ傳送ス添送符(ホチ)ヲ附置ス



10 指定事項

- 11 電報ノ本文 添送符號(ホチ)ヲ前置ス
- 12 發信人居所氏名
- 四、被呼局(艦船)其通信ヲ了解セハ承諾符(——)ト自己ノ局(艦船)名符號ヲ三回送り受信ノ證トス
- 五、被呼局(艦船)信文ヲ了解セス之カ再送ヲ乞フトキハ(イク)(——)ナル符號ヲ數回送り呼出局(艦船)ハ再送スルモノトス
- 第十二條 前條ニ於テ最初呼出ヲナストキ對手局(艦船)ノ應答ナキトキハ更ニ二分間ノ間隔ヲ以テ順次三回反覆スヘシ三回反覆スルモ尙應答ナキトキハ十五分間ヲ經タル後更ニ同一方法ニヨリ呼出ヲ爲スヘシ
- 第十三條 萬國信號ヲ以テ通信セントスルトキハ呼出ニ引續キ萬國信號ノ符號ヲ送ルヘシ
- 第十四條 海軍艦船其ノ通信距離内ニアル遞信省所屬無線電信局名ヲ知ラントスルトキ

又ハ遞信省所屬無線電信局其ノ通信距離内ニアル海軍艦船名ヲ知ラントスルトキハ探呼符(·····)及自局(艦船)名略符號ヲ反覆スヘシ

第十五條 前條ノ探呼符ヲ感シタル艦船(局)ハ第十三條第二項ニ準シ應答ヲナスヘシ

第十六條 送信局(艦船)ニ於テ無線電報ノ字(語)數和文百四十字歐文四十語以上ナルト

キハ和文凡七十字歐文凡二十語毎ニ送信ヲ中止シ同標ヲ送り對手局(艦船)ヨリ受信シタル最後ノ語辭及同標ノ返送ヲ受クルニ非サレハ其送信ヲ繼續スヘカラス

第十七條 両局(艦船)間ノ通信完了シタルトキハ互ニ結了符號(· · · · ·)及自局(艦船)名略符號ヲ交換スヘシ

第十八條 遞信省所屬無線電信局ニテ海軍艦船ト交信ヲ開始シタル後距離遠サカリ又ハ空電等ノタメ通信ヲ完了スルコト能ハナリシトキハ其旨發信者ヘ通知スルモノトス

第四章 通信ノ順序

第十九條 ·····符ノ連續ハ遭難船舶ヨリ送信ナルヲ以テ此ノ符號ヲ認メタル局(艦船)ハ直ニ總テ他ノ通信ヲ中止シ救助ニ關スル通報ノ終結シタルヲ確メタル後

ニ非サレハ前ノ通信ヲ開始セサルモノトス

第二十條 海軍ニ於テ緊急ナル通信ヲナサントスルニ際シ他ノ送信ヲ中止セシメンカ爲ニハ·····符ノ連續ヲ送ルコトアルヲ以テ此ノ符號ヲ認メタルトキハ直ニ其通信ヲ止メ緊急通信ノ終ルニ非サレハ再ヒ前ノ通信ヲ開始セサルモノトス

第二十一條 無線電報ニ依ル傳送順序ヲ左ノ如ク定ム

- 一、軍事官報
- 二、官報
- 三、公衆電報
- 四、試驗通信

但シ試驗通信ニ關シ相互ノ規約ヲ要スルモノハ別ニ之ヲ定メテ實施スルモノトス

第二十二條 遞信省所屬無線電信局ニ於テ二個以上ノ海軍艦船ヨリ同時ニ呼出ヲ受タルトキハ其ノ通信スヘキ順位ヲ指示スルコトアルヘシ

第五章 電報尋問及位置通知

第二十三條 海軍艦船ハ己ニ宛テランタル電報ノ有無ヲ確メ且ツ遞信省所屬海岸局ニ自  
己ノ所在ヲ告知シ置ンカ爲メ遞信省所屬海岸局トノ確實通信距離内ニ入りタルトキハ  
送信スヘキ電報ノ有無ニ拘ハラズ遞信省所屬海岸局ヲ呼出シ遞信省所屬海岸局ヨリノ  
概略方位及距離ヲ通知スルモノトス

例ヘハ海軍艦船遞信省所屬海岸局ノ西ヨリ東ヘ航セントスルニ際シテ己ニ百哩ノ距離  
ニアリトスレハ  
ニシヨリヒガシエ、一〇〇ト通知スルカ如シ

第二十四條 前條ニ於ケル概方位ヲ示スニハ北、北東、東、南東、南、南西、西、北西ノ八方  
位ヲ以テスルモノトス

第二十五條 遞信省所屬海岸局第二十五條ノ通知ヲ得タルトキハ次ノ如ク返信スルモノ  
トス

一、同艦ニ宛テタル電報アルトキハ其電報ノ數ヲ示ス

百二十六

海軍

即チ「デン四」トスルカ如シ

二、同艦ニ宛テタル電報ナキトキハ其電報ナキコトヲ示ス

即チ「デンナシ」トスルカ如シ

第二十六條 海軍艦船遞信省所屬海岸局ノ通信圏外ニ出テントスルトキハ其ノ旨ヲ報知  
スルモノトス

例ヘハ遞信省所屬無線電信局ノ南西方向ニ航シ去ルトキハ「イマナンセイニサル」ト報  
知スルカ如シ

第六章 料金ノ支拂

第二十七條 海軍ヨリ引繼キタル遞信省所屬海岸局ヲ介シ發送スル電報ハ其ノ無線電信  
ニ係ル部分ノ料金ハ無料トス

第二十八條 前條ノ遞信省所屬海岸局ヲ介シ同地所在ノ海軍望樓ト海軍艦船間ニ行フ通  
信ハ總テ無料トス

第二十九條 遞信省所屬無線電信局ヨリ海軍艦船ニ向ヒ通信ヲ開始シ遂ニ其目的ヲ達セ

ナリシトキハ其料金ハ遞信省令第十六號無線電報規則ニ從フ

第三十條 海軍艦船ヨリ通信ヲ開始シ途ニ其目的ヲ達セザリシトキハ料金ヲ支拂ハス

第三十一條 艦船ヨリ遞信省所屬無線電信局ヲ介シテ發送セル海軍ノ電報料金ハ總テ海軍省經理局ニ於テ之ヲ支拂フモノトス

第三十二條 遞信省所屬無線電信局ヲ介シテ無線電報ヲ發送セル海軍艦船ハ毎月五日迄ニ其ノ前月中ノ電報ノ寫シヲ海軍省經理局ニ送付スヘシ

第三十三條 海軍省經理局ニ於テハ遞信省ヨリノ要求額ニ照ラシ電報料ヲ支拂フモノトス




<p>一等巡洋艦</p> <p>G G G G A Y T A Z K W M</p> <p>吾 入 常 淺 妻 雲 磐 間</p>	<p>G G G S H S W Z M</p> <p>周 肥 薩 防 前 摩</p>	<p>戰艦</p> <p>海軍艦(船)名略符號</p> <p>G G G G G G G G G G A I K K M T A S S H K W S T K G H S G J</p> <p>安 石 鹿 香 三 丹 朝 敷 相 宮 藝 見 島 取 笠 後 日 島 摸 士</p>
	<p>Y Y T I S Y</p> <p>土 伊 佐 豫 丸 丸</p>	<p>日本郵船</p> <p>Y Y Y A K T K G G</p> <p>安 加 丹 藝 賀 後 丸 丸 丸</p> <p>東洋汽船</p> <p>T T Y</p> <p>天洋丸</p>
	<p>海軍</p>	<p>遞信省海岸局名略符號</p> <p>J J J J T S O C S M S S</p> <p>角 潮 大 鏡 島 脚 瀬 子</p>

3251



<p>G G G G 海防糧 M O I C S S K Y</p> <p>見 沖 壹 鎮 島 島 岐 遠</p>	<p>海 軍</p>	<p>G G G G G G G G 三等巡洋艦 O T N A S A C L W M T I A U D Z</p> <p>音 對 新 明 須 秋 千 和 羽 馬 高 石 磨 津 代 泉 洲 田</p>

<p>水雷母艦</p> <p>G T S</p> <p>豊橋</p>	<p>砲艦</p> <p>G G G</p> <p>H S U</p> <p>M D J</p> <p>伏 隅 宇</p> <p>見 田 治</p>	<p>通報艦</p> <p>G G G G G G G G</p> <p>Y A M S M C T Y</p> <p>D G N Z G H T Y</p> <p>淀 姊 滿 鈴 最 千 龍 八</p> <p>川 州 谷 上 早 田 重</p> <p>山</p>
		
	<p>海軍</p>	

3254

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>



K K K K K K K K K K K K K  
 H S H N U N M Y Y Y O H A  
 H H K H W W Z D G N T T T

初 白 誓 子 潮 野 三 夕 夕 夕 追 疾 朝  
 春 妙 日 分 月 立 暮 風 風 風 露

K K K K K K K K K K K K K  
 S H A M S S K Y H K A H A  
 R Z K K Y U G Y M Z R B A

時 春 朝 松 白 白 如 彌 初 神 霞 吹 有  
 雨 風 風 風 雪 露 月 生 霜 風 雪 明

海  
軍

3256

K K K K K K K K K K K K  
A I U M S K N H M S H W  
N N N G N D I I T T Y B

稜 磯 浦 卷 敷 菊 長 文 水 皐 初 若  
波 波 波 雲 波 月 月 月 無 月 雪 菜

海  
軍

3257

附表第二

一、歐文電報ニ用ニル記號

終點	・
讀點	、
小讀點	；
重點	：
問標	？
感符	！
略符	／
新章	//
連續點	—
括弧	( )
轉倒句讀	“ ”

海軍

二、電報ニ用ニル指定事項ノ略符號

宇下線	——	
略除線	/	
指定事項		和文略符號
至急	ウナ	UR
至急親展	ウニ	UC
返信料前納	ナツ	RP
返信至急	ナウ	RU
返信照校	ナム	RT
照校	ムニ	TC
電報受信報知	ツニ	PC
郵便受信報知	ツツ	PP
追尾	チラ	FS
		歐文略符號





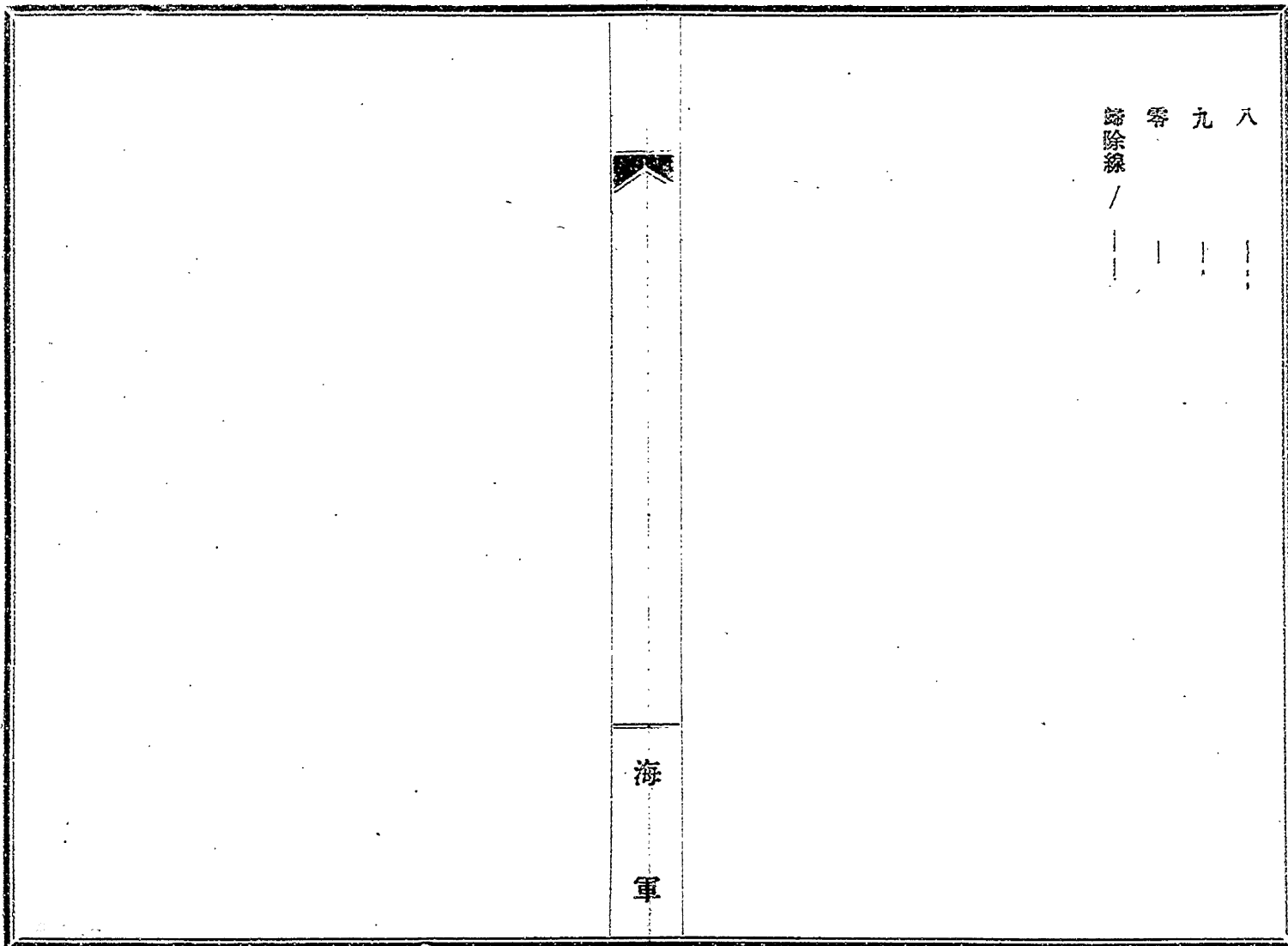
<p>五、傳送上ニ用フル添送符號</p> <p>前項ノ時辰符號ヲ傳送スルトキハ和文電報ニアリテハ時分ノ前ニ歐文電報ニ在リテハ其ノ後ニ尙午前又ハ午後ノ符號ヲ加送ス</p>		<p>K 十時 又ハ五十分</p> <p>L 十一時 又ハ五十五分</p> <p>M 十二時 又ハ零時</p> <p>R 一分</p> <p>S 二分</p> <p>W 三分</p> <p>X 四分</p>				
<p>六、受信シタル電報ヲ照校スルトキ若ハ受信證トシテ番號ヲ送ルトキハ左ノ數字及跡除線ノ符號ヲ用フヘシ</p>		<p>昨日 BYY</p> <p>本日 TY</p>				
<p>時 CODE</p> <p>午前 M</p> <p>午後 S</p> <p>字(語) W</p>		<p>海軍</p>				
七	六	五	四	三	二	一
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....

3260

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>



歸除線  
八  
九  
零

海  
軍

3261

第三百二十號

海軍大學校規則中ニ左ノ通追加ス

明治四十一年十月三十一日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

第十五條ノ三 選科學生志願者ニ對シテハ入學後研究セントスル學科目ニ依リ詮衡ニ資  
スル爲メ相當ノ考試ヲ行ハシムルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ第十三條中試驗ニ關  
スル規定ヲ準用ス

海軍大學校條例第二十一條第二項ニ依リ選科學生ヲ命セントスル者ニ關シテモ亦前項  
ヲ適用ス

第十七條中第五號ヲ左ノ如ク改ム

五 選科學生 約一箇年但シ外國語學ヲ專修セシムヘキ者ハ約二箇年

百二十八

海軍

3262